

バイオマーカー小委員会

(バイオマーカーによる川崎病治療法選択ならびに冠動脈瘤形成予測に関する研究)

勝部康弘¹⁾、佐地勉²⁾、今中恭子³⁾、武田充人⁴⁾、関満⁵⁾、大熊喜彰⁶⁾、阿部淳⁷⁾、益田博司⁷⁾、小林徹⁷⁾、高月晋一²⁾、緒方昌平⁸⁾、廣野恵一⁹⁾、加藤太一¹⁰⁾、池田和幸¹¹⁾、吉兼由佳子¹²⁾、三谷義英³⁾、須田憲治¹³⁾、山村健一郎¹⁴⁾

1) 日本医科大学、2) 東邦大学、3) 三重大学、4) 北海道大学、5) 群馬大学、6) 国立国際医療センター、7) 国立成育医療研究センター、8) 北里大学、9) 富山大学、10) 名古屋大学、11) 京都府立医科大学、12) 福岡大学、13) 久留米大学、14) 九州大学

研究要旨 (400 字程度)

川崎病は概ね年間約 1 万 5 千におよぶ新しい患者が報告され、そのうち約 2.6%冠動脈後遺症が見られる。臨床症状ならびに簡便な臨床データから免疫グロブリン不応例を予測する試みは小林らのスコアをはじめいくつか報告がなされており、治療の層別化が行われている。しかしながら、前述のように冠動脈病変の合併を完全に抑え込むことはできていない。バイオマーカーを用いてこの問題を克服しようとする試みがこれまでに多く報告されているが、それぞれ小規模な個別研究の域を出ておらず全国規模での研究は行われていない。本研究の目的はバイオマーカーにより川崎病の免疫グロブリン不応予測ならびに冠動脈瘤形成予測の可否を検討することであり、日本川崎病学会が主導し全国規模で研究を行う。研究方法は大きく 2 つに分けて行う。一つが既報のバイオマーカーをエビデンスに基づいて分類し、これまでの個別に報告されてきた川崎病バイオマーカーを総括し、学会員をはじめ臨床実地医家にお示しすることである。もう一つがエビデンス分類から有用なバイオマーカーを絞り込み、前方視的に免疫グロブリン不応性予測ならびに冠動脈瘤形成予測の見地から検討することである。本研究は平成 28 年度から厚生労働科学研究費補助金を得て (H28-難治等(難)-一般-003) 研究を開始している。(543)

A. 研究目的

バイオマーカーにより川崎病の免疫グロブリン不応予測ならびに冠動脈瘤形成予測の可否を検討すること。

B. 研究方法

研究方法を大きく 2 つに分け行う。

- ① 既報のバイオマーカーをエビデンスに基づいて分類し、これまでの個別に報告されてきた川崎病バイオマーカーを総括し、その有用性に検討を加える。
- ② エビデンス分類から有用なバイオマーカーを絞り込み、前方視的に免疫グロブリン不応性予測ならびに冠動脈瘤形成予測の見地から検討する。

(倫理面への配慮)

研究②については、患者検体を取り扱う必要があり、研究参加医療機関において倫理審査会での承認を取得する必要がある。現在申請に向け準備中。

C. 研究結果

(当該年度の研究結果が明らかになるように具体的に記入すること。)

研究①に関しては、現在約 30~40 のバイオマーカーについて既報の論文をリストアップ中である。リストアップが済み次第各委員に論文の評価を依頼する。研究①の研究結果は平成 28 年度末を目標としている。

研究②に関しては、倫理審査会での承認が取れ次第順次患者検体の収集を開始する。本研究は主として平成 29 年度の研究課題となる。

D. 考察

川崎病のバイオマーカーについての研究は公的研究費を取得し、本年度から本格的に開始したところである。現時点では研究成果は得られていないが、研究成果の報告義務もあるため成果を急ぎたい。

E. 結論

川崎病バイオマーカーは研究の途に就いたばかりである。公的研究費の取得もでき、今後成果を急ぎたい。

F. 研究発表

1. 論文発表：なし
2. 学会発表：なし
(発表誌名巻号・頁・発行年等も記入)

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得：なし
 2. 実用新案登録：なし
 3. その他：研究費取得状況
- ① 平成 28 年度厚生労働科学研究費補助金-難治性疾患政策研究事業 研究代表者：勝部康弘
 - ② 平成 28 年度科学研究費助成事業-基盤研究 (B)(一般) 研究代表者：今中恭子